

短期自律反発？それとも年末ラリーの始まり？



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 自律反発が起きやすい地合いにある

S&P500種株価指数が直近2営業日で5.7%上昇するなど、世界的に株価の自律反発の動きが強まっています。英政権が大規模減税案の一部撤回を明らかにしたことに加え、国連貿易開発会議による世界の金融政策に絡む景気後退リスクへの言及や豪中銀の予想外の利上げ幅縮小で、過度な利上げ観測が和らいだことなどが、市場心理の改善につながったとみられます。

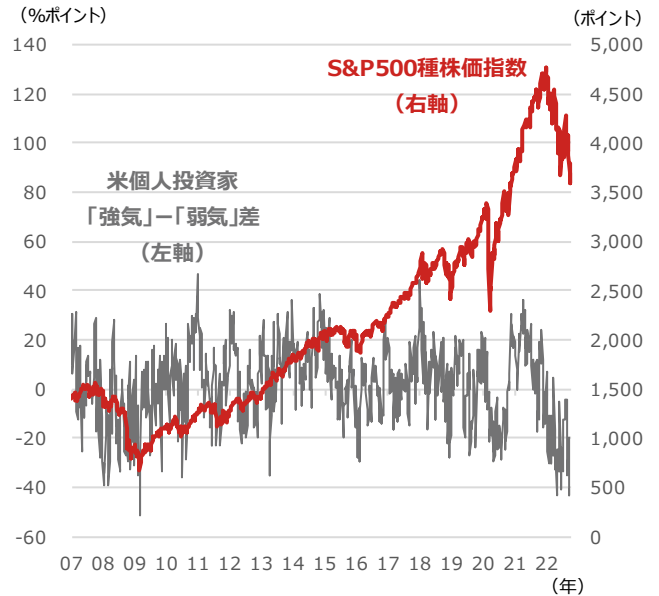
今回の株価の自律反発は短期リバウンドなのか、それとも年末ラリー（株高）の始まりなのでしょうか。現時点ではどちらか判別することは難しいですが、ラリーが起きやすい環境にあるとはいえそうです。①市場心理が過度な弱気に傾いていること（右上図）、②世界の機関投資家によるグローバル株式の強気割合が過去最低水準とみられること、③待機資金の側面のある米MMF残高が過去最高水準にあること（右下図）、などがその背景です。

ポイント② 年末ラリーの確度が高まりつつある

市場環境を取り巻く不透明材料が依然多いことから、目先的には米国の「雇用」、「物価」、「企業業績」といったファクトデータの内容次第でラリーの長さが決まってくると考えられます。

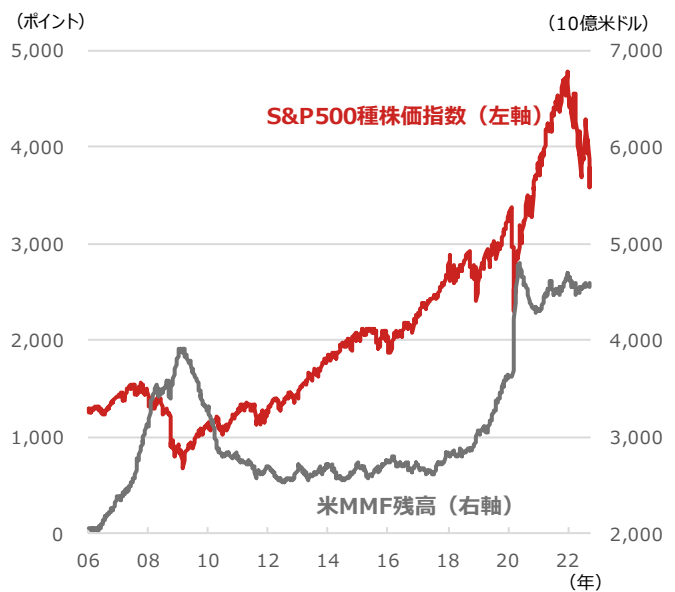
10月4日発表の米求人件数が14ヵ月ぶりの水準にまで大幅減少するなど、雇用環境のひっ迫を背景とした賃金インフレに鈍化の兆しが見え始めてきました。また、米住宅価格の前月比伸び率が直近2ヵ月で大きく下落するなど、物価鈍化を示唆する兆候もみられます。米企業決算は期末の9月末までに目立った下方修正アナウンスが少なかったことも安心材料です。これらの点を踏まえると、年末ラリーに向かう確度は高まりつつあると考えられます。

S&P500と米個人投資家「強気」-「弱気」差



期間：(S&P500種株価指数) 2007年1月5日～2022年10月4日、週次
(米個人投資家「強気」-「弱気」差) 2007年1月4日～2022年9月29日、週次
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

S&P500種株価指数と米MMF残高



期間：(S&P500種株価指数) 2006年1月6日～2022年10月4日、週次
(米MMF残高) 2006年1月4日～2022年9月28日、週次
・MMFはマネー・マーケット・ファンド
(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。